

# 平成25年度教師海外研修(ガーナ) 研修報告書

学 校 名	静岡県立藤枝東高等学校	氏 名	五藤 聡
-------	-------------	-----	------

## 1. 印象に残る写真2点

### ●「初めましてココちゃん（カカオ）」



高校地理でもよく取り扱うガーナのカカオ。本場のカカオにようやく出会えた喜びは、ずっと前から知っていた、でも今まで一度も会ったことがなかった憧れの美女と初対面した時のよう。ドキドキ緊張しました。

### ●「ガーナを駆け巡ったワゴンの仲間たち」



このワゴン1台でガーナの各地を駆け回りました。長距離移動や悪路もへっちゃら。車内で飛び交う会話、笑い声、さけび、諸連絡、専門家の説明、いびき、人生相談、リコーダー、アサラド…いい思い出です。

## 2. 現地研修に対する各自の目的 とその達成度

### （特に、現地研修の経験を生かす授業実践に資することについて）

私が高校教師として本研修に参加した目的は、教科指導（地理歴史）と進路指導の2つの大きな柱によって「国際社会に主体的に生きる日本人として自覚と資質を養うこと」である。

【教科指導】：飛行機に乗った瞬間からガーナやドイツで見聞したすべてが地歴の授業に直接結びつくという点で、寝る間以外はすべてが授業教材という大変刺激的な研修であった。授業で取り上げたい内容としては、

地形・気候・植生などの自然環境、主産業である農業の変革や新興産業になりつつある石油関連産業と国際経済との関係、国内の村落都市・社会基盤・流通経済・教育等における南北問題、悲惨な奴隷貿易や被植民地時代と現代ガーナ、衣食住や宗教など生活文化、持続可能な国際協力の在り方など、うれしいことに挙げれば切りがない。収集してきた生きた教材を今後どのようにアレンジすればよいのか、生徒一人ひとりが世界とのつながりをどのように感じてくれるのか、授業実践が楽しみである。

【進路指導】：将来、国際社会と関わりを持ちたいと感じている高校生は少なくない。ガーナでは、健康でたくましく、そして信念を持ってそれを実現しようと活動する多くの日本人に会い、彼らからたくさんのことを学び、考えさせられた。私たち日本人は、素晴らしい教育環境のもとで豊かな知識や高い専門性を身につけられることをもっと自覚すべきである。私は高校教師として、国際社会のために貢献できるチャンスがあることを伝え、生徒に将来の生き方、在り方について考えさせていきたい。

### 3. 訪問国から学んだこと（気づいたこと、わかったこと、大切に思ったことなど）

#### （1）柱1「訪問国に肯定的に出会う」という観点から

ガーナやアフリカに対して知識やイメージが乏しかった私が、グッと身近に自分のこととして感じる事ができたのは、ガーナ2日目のアカチの小学校の子供たちとの出会いがとても大きい。彼らは決して豊かとは言えない地域の子供たちであるが、私たち日本人教師が来るのを楽しみに待っていてくれたようで、明るく元気な声と笑顔で挨拶してくれ、何事にも好奇心旺盛で日本の小学生と何も変わらない。教科書が無いなど不十分な教育環境の中でも、一生懸命先生の話聞き、大きな夢を抱いて学んでいた。子供たちの様子からも、ガーナ人の明るく人懐っこい国民性や、教わったことを吸収し発展させようとする向上心がうかがえる。

ガーナは近年、民主化がすすめられ二度の与野党間政権交代を民主的かつ平和裏に果たしている。また経済面でもカカオによる単一経済からの脱却を図り、天水稲作や石油関連産業、外国企業の積極的誘致等によって新たな産業育成が期待されており、少しずつではあるがガーナは未来に向けて持続的に前進しつつある。

このようなガーナの発展に貢献しているのが、ひとつにはJICAや日本企業であり、日本人のJICA専門家やボランティアの働きがある。日本人とガーナ人がともに協力し合うことは双方の国にとって大切なことで、こうした関係はこれからも築いていかねばならないと思う。

#### （2）柱2「日本と訪問国とのつながりや同一性を理解する」という観点から

チームの活動で「ガーナ人の知っている日本」についてアンケートを取り集約した。実際のところ日本のことはあまり知られていないようではあったが、答えてくれたすべてのガーナ人が日本企業については知っていた。日本製の自動車や電気機器がガーナ人の日常生活の中に浸透していて、「なぜ日本のような小さな島国がそこまで発展できたのか？教えてほしい。日本は素晴らしい。」とガーナ人の日本に対する印象は非常に良かった。他にもサッカーや相撲が知られていて、訪問した小学校や国際学校では子供たちと体でぶつかり合いながら大いに盛り上がった。

一方、一般的な日本人が持つガーナのイメージは、カカオや野口英世が多いだろう。ガーナ人と接したことで分かったことは、ガーナ人も日本人も全く同じ人間同士であり、家族や親戚を大切にすると、話をすればすぐに打ち解け合いにこやかに笑うところ、困った時に手を差し伸べてくれる優しさ、きちんと教育すれば

一生懸命学ぼうとする向上心など、様々な点で共通する人間同士である。

人も国家もそうであるが、お互いのことを知り理解するほど、新しい発見やその先の未来が広がっていく。教師として私にできることは、まずは知ること、知らせていくことが大切であり、生徒たちにアンテナを高く持たせて視野を広げていきたい。

### (3) 柱3「共通の課題について共に考え・共に越える」という観点から

日本とガーナに共通する課題、それは「教育」である。改めて教育の重要性について痛感した。

ガーナにおいては、教育といっても学校教育だけの話ではなく、行政機関や農業・インフラ整備事業など様々な現場においても教育、あるいは支援が必要である。例えば地域間での学校教育の格差は、社会全体の格差をより拡大してしまいかねない。しかし、先進国による一方的な教育や巨額の支援だけではガーナの「持続可能な発展」には結びつかない。被支援国は外側からの支援だけに頼るのではなく、被支援国の内側から変化していかなければならない。そのためには、細かなことの積み重ねである教育こそが、この国の将来を握っているはずだ。

一方、日本人は先人たちの努力により先進国と呼ばれる豊かな暮らしを得ているが、素晴らしい教育を受けられることが当たり前になった国内で、それだけに満足してしまう内向きな若者、あるいはそれを十分に享受せず自分の可能性を狭め、将来の希望を見失ってしまう若者などが増えている。それは経済の影響に左右されることもあるが、やはり教育が人をつくり、国家をつくることに違いはない。教育に携わる教師として、その重要性や責任・使命感を改めて感じた。

## 4. JICAの国際協力事業の「良い!と思ったところ」と「今後あるといいなと思う視点」

「持続可能な開発」という視点に基づいた国際協力の在り方が素晴らしい。他国がこれまで実施してきた、高度な技術や多額の資金を使った大規模な国際協力では、プロジェクト終了後の損失や、被支援国の持続的な発展が難しいことがある。こうした出口戦略について天水稲作プロジェクトで話を聞いた。日本のやり方を押し付けるのではなく、現地の慣習や文化、国内外のニーズに沿ってガーナ人と協力し、あくまでガーナ人・ガーナ政府による、ガーナ人のための国際協力を推進している。地道な作業の積み重ねではあるが、少しずつ目に見える形でガーナ人の暮らしは改善されていき、そしてガーナ人によってその技術が普及していく。そうした変化に専門家達は大きなやりがいを感じ、ガーナ人と手を取り合って喜びを分かち合うという。本当に素晴らしいプロジェクトだと思う。ぜひ授業で高校生に話をさせていただきたい。

しかし、このような素晴らしい JICA の国際協力にもかかわらず、まだまだ日本国内ではその事実が知られていない。専門家のインタビューにもたくさんあったが、国際社会の場に日本人の若者が出遅れている事情を考えても、もっと積極的に JICA の活動を世間、特に若者にアピールし、日本人の活躍の場を世界に拡大するきっかけを作ってってもらいたい。

## 5. 来年度参加する先生へのアドバイス（持ち物、必要な準備、学びの視点、注意事項など）

実際に研修が始まってからガーナに行くのに1カ月半ぐらいしかなく、学校の仕事もある中で、個人やチームごとの事前準備が大変でした。どのようなことを目的とし、帰国後は何を実践したいのか、よく練り上げて

から出発できると思います。また、高校地歴公民や中学社会の先生はよくお分かりかと思いますが、現地には持って帰りたい教材が山ほど転がっています。私はガーナまるごと持って帰るぐらいの気持ちで、ジップロックのようなビニル袋や大きなバッグをたくさん持っていきました（もちろんガーナは全部入りきりませんでしたが…たくさん収穫物がありました。）。チャンスは突然やってきます。積極的に行動するとよいと思います。

また、小さな打楽器「アサラド」というものがあります。2つの乾燥させた木の実を「シャカシャカ」と鳴らすアフリカの民族楽器です。アサラドを手に入れたガーナチームのメンバーは、バスの中、ホテルの中、いつでもどこでもシャカシャカシャカシャカ…と練習を重ね、研修中に基本をマスターすることができました。街角で練習しているとガーナ人の男たちが自然と集まり、俺のテクニックを見てろよと、優しくそして自慢げに教えてくれるものでした。アサラドはコミュニケーションのツールとしてもおすすめです。また、帰国後は授業で生徒に好評です。（五藤 聡）

## 6. その他全般を通じての感想・意見など

ガーナチームのみなさん、久世さん、各務さん。自分の考えを素直に相手に伝えられ、共感し認め合える、そういう「仲間」ができたことは、この研修の醍醐味であり、僕にとって大きな財産となりました。個性派がそろい、いろいろなことがありましたが、それぞれがこの研修に参加するにあたっての信念や目標を持っていて、話していて皆さんのことが好きになり、熱くさせられる場面もありました。いろいろ御迷惑をおかけしましたが、本当にありがとうございました。これからもよろしく願います。（五藤 聡）

以上